

漁海況情報

平成20年12月1日 第26号(通巻385号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

TEL: 0837-26-0711 FAX: 0837-26-1042 Mail: a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

【萩 - 見島フェリー観測の表層水温】

萩 - 見島フェリー観測による萩沖の表層水温は、11月下旬に入り20台となり、5~8日の周期で変動しながら降温しています。12月1日の表層水温は19.73で、前年に比べ0.24高め、平年に比べ2.18高めです。

【豊関・大津長門地区の水温情報】

漁業調査船「第2くろしお」による、11月26日の水温調査結果をお知らせします(下表)。調査ラインは右図のとおりです。

表 各観測点の水深別水温() 11月26日

測点番号 名称等 深度・時刻	豊関人 工礁 13:00	神田岬 沖 13:55	川尻岬 沖 14:55	オーシ ヤンク ロス 16:38	深川湾 口 15:29
0m	19.8	20.0	19.9	20.2	19.9
20m	19.6	19.9	19.9	20.2	19.9
40m	19.4	19.8		20.1	
60m	19.2	19.6		20.1	
80m				20.0	
海底	19.2	19.6	19.9	20.0	19.5
水深	71m	72m	35m	89m	39m

【平成20年 山口県版資源評価票】

平成20年山口県版資源評価票を作成しましたので参考にしてください。今号はこのうち「マイワシ、ウルメイワシ、カタクチイワシ、マアジ、マサバ、ぶり類」の6魚種をご紹介します。文中の「漁獲量」とは山口県日本海側の漁獲量(山口農林水産統計年報、日本海区)を示し、グラフはその推移を示しています(次ページ以降に掲載)。



魚種名	資源水準	資源動向	資源評価の概要	H18日本海側漁獲量 (山口農林水産統計最新値)	山口県日本海側漁獲量の推移(山口農林水産統計、日本海区より抜粋)
マイワシ	低位	増加	<p>・対馬暖流系群の資源量は、昭和45年以降増加し、昭和58年には1000万トンに達した。その後減少し平成7年には100万トン、平成13年には5千トンを下回り、過去最低水準であったと推定される。平成16年以降は増加傾向にあり、平成19年は31,000トンと推定された。</p> <p>・山口県の漁獲量はH2年に81万トンと最高となった後、急速に減少し、H15年には110トンとなった。</p>	300トン	
ウルメイワシ	中位	増加	<p>・対馬暖流系群の資源量は、平成8年以降減少したが、平成13年以降増加傾向にある。また、対馬暖流域における卵豊度も平成13年以降微増傾向にある。</p> <p>・山口県の漁獲量はS61年の1万トンを超えて以降は減少し、H12年には1,000トン台まで落ち込んだ。H13年以降、卵豊度は上向いており、漁獲量は2,000トン前後で推移している。</p>	1,303トン	
カタクチイワシ	中位	増加	<p>・対馬暖流系群の資源量は平成2年以降増加し、平成13年に急減したが、平成14年以降は再び増加し、近年は高水準である。過去30年以上にわたる資源量の推定結果から、資源水準は中位、資源動向は増加と判断された。</p> <p>・山口県日本海側の漁獲量の多寡は、資源量以外に沿岸域における漁場形成条件に左右される。平成3～5年には8,000トンを超える漁獲があったが、その後減少し、平成12年以降は3,000～5,000トンで推移している。H14年以降の資源量は、変動を伴いつつ横ばい傾向にあると判断される。</p>	3,875トン	

魚種名	資源水準	資源動向	資源評価の概要	H18日本海側漁獲量 (山口農林水産統計最新値)	山口県日本海側漁獲量の推移(山口農林水産統計、日本海区より抜粋)
マアジ	中位	減少	<p>・ 対馬暖流系群の資源量は、平成5～10年には51万～56万トンの高い水準を維持していた。平成13年には28万トンまで減少したが、その後増加し、平成16年は54万トンであった。平成17年以降は減少し、平成19年は45万トンであった。これらのことから資源水準は中位、資源動向は減少と判断された。</p> <p>・ 山口県日本海側の漁獲量は、昭和63年～平成7年には1万トンを上回っていたが、平成8年以降は平成10年を除き、1万トン以下で推移している。</p>	6,445トン	
マサバ	低位	横ばい	<p>・ 対馬暖流系群の資源量は、平成9年以降急減し、平成19年は53万トンと低い水準にある。加入量も平成9年以降低い値で推移している。従って資源水準は低位、資源動向は横ばいと判断された。</p> <p>・ 山口県日本海側のさば類(ゴマサバを含む)漁獲量は、平成2年以降、2万トンを下回る低水準にあり、平成12年以降は7,000トン以下で推移している。さば類(マサバを主体としてゴマサバを含む)漁獲量はH2年以降減少し、資源水準は低水準にある。</p>	3,263トン	
ぶり類	中位	横ばい	<p>・ 現在のぶり類資源量は、努力量の変動が小さい定置網における資源量指数値の推移ならびに漁獲物の年齢構成の推移から、資源水準は中位、資源動向は横ばいと判断された。</p> <p>・ 近年、山口県日本海側の漁獲量は1,000～2,000トンで推移しているが、銘柄ブリ(3kg以上)の来遊量が減少しており、漁獲の主体は銘柄ヤズ(1～2.5kg)となっている。</p>	2,105トン	

